

令和 7 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1670800281
法人名	医療法人社団 明寿会
事業所名	グループホーム あっとほ〜む砺波
所在地	砺波市鷹栖1973-1
自己評価作成日	令和7年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は、散居村の自然豊かな環境にあり、地域行事への参加や花壇整備などを通じて、地域の方々と日常的に交流を深めています。支援においては「個別ケア」を重視し、「センター方式」や「課題整理総括表」を活用して利用者の小さな変化に気づき、一人ひとりに合わせた介護計画を作成しています。法人全体での情報共有システムにより、利用者に適した支援と職員の働きやすい環境づくりも推進しています。さらに、医療連携体制を整え、訪問看護師との情報共有、言語聴覚士による嚥下機能の評価、理学療法士による訪問リハビリなどを実施し、利用者の健康維持と生活機能の向上を支援しています。私たちは「個別ケア」「町の中での暮らし」「ケアサービスの向上」を理念に、研修や勉強会を通じて知識・技術を磨き、安心できる暮らしの実現を目指しています。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、遠くの山々と田園が広がるのどかな環境の中にあり、利用者は日々窓からの景観を眺めたり、散歩を楽しんだりしている。昨年度には、家族や地域との交流を促進するための工夫と実践で「がんばる介護事業所表彰」自立支援部門で表彰された。法人によるケアシステムが整備され、ペーパーレス化や職員間の情報共有の徹底、介護の質の向上や、職員の働きやすさに繋がっている。また、全室のベッドにマット型見守りセンサーを設置し、利用者の睡眠や体調確認、転倒や転落の防止に役立ったり、夜勤職員の負担軽減にもなっている。職員は、年間休日が120日あり、上司にも相談しやすく働きやすい環境の中で、利用者が自分の思い通りに快適に過ごせるようチームで支えている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和7年10月30日	評価結果市町村受理日	令和7年12月17日

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所は、「個別ケア」「町の中でのくらし」「ケアサービスの向上」という運営理念を基に、年度初めに年間目標を掲げ、日々の実践に取り組んでいます。今年度の目標は「利用者に生きがいをもとに、一人ひとりが充実した生活を送れるよう支援を行っています」。	法人理念と事業所の年間目標は、事務所や事業所内に掲示の他、パソコンのメールで日々職員間で情報共有されている。令和6年度「がんばる介護事業所表彰」自立支援部門で表彰されており、園芸活動後の地域住民への感謝祭の開催や、地域行事への積極的参加など実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として、地域行事への参加や、地域の方々と一緒に季節ごとの花植えを行うなど、交流を深めています。また、地域の方が花植えに来所された際には感謝祭を開催するほか、地域貢献としてお地藏さま周辺の清掃活動にも取り組んでいます。	住民運動会、防災訓練、小学校の学習発表会への参加、また、実習生の受け入れを通して地元の高校生との交流を図っている。事業所のプランターに花苗を植えていただいたお礼に感謝状を贈呈するなど、より地域の方との親交を深める工夫をしている。法人の送迎車を使用し、地元のプロサッカーチームの試合の応援観戦を実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に広報を発行し、回覧板を通じて地域の皆さまに事業所の取り組みや認知症に関する情報をお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の皆さんの活動の様子を写真とともに紹介しながら報告しています。玄関には議事録を掲示し、会議で出たご意見をもとに、より良いサービス提供に努めています。	運営推進会議には区長、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者2名、利用者の家族2名、事業所の管理者2名が参加している。利用者家族は順番に交代で参加しており、参加しやすいように、平日の夜間に開催している。3か月に1回発行される広報誌も活用しながら活動の様子を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や地域ケア会議などで意見交換を行っています。また、月に一度介護相談員の訪問があり、日頃から協力関係の構築に努めています。	砺波市地域包括支援センターから依頼があり、地域住民を対象とした認知症研修会に職員が参加した。今年度は認知症の方の対応方法をテーマに開催し、参加者(地域の区長や副区長)のグループワークのサポートを通して協力するなど関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない方針のもと、日々の利用者支援に取り組んでいます。法人全体の身体拘束委員会への参加や外部研修の受講、事業所内での勉強会開催を通じて学びを深め、身体拘束のないケアの実践に努めています。	法人の身体拘束委員会は、緊急開催も含めて今年度は4回開催予定である。指針が作成されており、全職員に不適切ケア、セキュリティー、動画視聴後のアンケートなどを行い、これを基に委員会を開いている。その後、委員会の内容や他事業所での不適切ケアについてミーティングで話し合い、議事録を共有している。適切な言葉への言い換え表をトイレに貼り意識喚起を促している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関して、外部および内部研修で学ぶ機会を設け、さまざまなケースにおける虐待について理解を深めるとともに、職員間での情報共有に努めています。 また、日々の細かな対応においても見過ごすことがないように意識を高め、虐待防止に取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部研修を通じて知識や理解を深めています。 また、ご要望があった際には、必要とされるご家族等へ学んだ内容をわかりやすくお伝えするよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ご利用者・ご家族に対して十分な説明を行い、ご理解いただいたうえで契約を締結できるよう努めています。支援内容や解約、長期入院などに関するご家族の不安や疑問については、その都度丁寧にお伺いし、不安の軽減とご理解につながるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ビジネスラインや意見箱の設置、年1回のご家族アンケートの実施などを通じて、ご意見の把握に努めています。また、面会時などにもご家族からのご意見・ご要望をお伺いし、必要とされていることに対して重点的な支援を行っています。	家族には、メッセージアプリを利用し、利用者の状態報告だけでなく写真も送ることにより、詳しく日々の様子を伝え、双方向の情報交換や要望を伝えやすい工夫をしている。また、グリーンカーテン作りなど、家族の参加を促す取り組みを積極的に行っている。家族からの要望は直ぐにメモアプリに入力し、職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや法人内メールを活用し、情報共有や意見・提案ができる体制を整えています。さらに、アンケートの実施や職員面談を通して意見を伝えられる場を設けています。また、法人メールを利用して直属の上司へ相談できるシステムを導入し、職員が提案や相談しやすい環境づくりに努めています。	勤続年数の長い職員が多く、直属の上司や、同僚に話しやすい環境がある。また、人間的にもいつでも職員面談を行える体制が整っている。毎年、年度末に職員による上司評価があり、上司となる職員は年間を通して職員の意見や思いを聴く時間を設け、反映に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの状況を管理者が把握し、必要に応じて上司へ報告できる体制を整えています。また、適宜職員満足度調査や職員意識調査を実施し、職員の意見を把握する機会を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに応じた内部・外部研修を輪流しています。また、月1回の勉強会を開催し、知識を深める機会を設けています。法人からは研修費用の援助もあり、研修を受けやすい体制を整えています。さらに、日々のケアの中でも、その都度指導を行いながら実践的に知識や技術を身につけられるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の勉強会や委員会、地域ケア会議、各種研修などに参加し、同業者との交流の機会を設けています。情報交換やネットワークの構築に努め、サービスの質の向上につなげています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期には生活リズム・パターンシートを活用し、ご本人の状態を把握しています。また、ご本人やご家族からの情報をもとにコミュニケーションを図り、安心して過ごしていただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にはご家族からの要望や介護に対する意向をお伺いし、良好な関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時には、ご利用者やご家族の意向や状況を考慮し、個別に応じたサービスを提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができることはご本人に行っていただき、過剰な介護にならないよう心がけています。また、日常生活の中で役割を持ち、互いに助け合いながら過ごしていただけるよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃からご利用者の様子や状況を報告し、情報を共有しています。また、行事への参加やお盆・お正月の面会、外出などの機会を持てるよう、電話やメッセージアプリを活用して連絡や説明を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の地域行事への参加や、友人・ご家族との面会の機会を大切に、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	入居時に本人と家族に対し、家族以外の人との面会の要望を確認している。その上で、外出や面会、馴染みの美容院へ行くなど、今までの関係が継続されている。なかなか会えない方と話がしたいと要望があり、メッセージアプリで会話ができるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーションや作業を通じて、ご利用者と一緒に過ごす時間を大切にしています。また、ご利用者同士が円滑に交流できるよう、声かけや環境づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族からの相談や要望に応じられる体制を整えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、ご利用者の思いを把握するよう努めるとともに、情報を共有しています。ご本人の思いや意向を大切に、また、ご家族の意向は面会時に確認しています。	入居時に、家族にセンター方式のシート一式を渡し、わかる範囲での記入を依頼している。入居から1週間は職員全員で、「私の思い支援してほしいことシート」を記入し、日々の本人のつぶやいた言葉や、職員の対応とその結果を業務日誌に入力している。全職員は出勤時にそれぞれパソコンで日誌を確認している。日誌は閲覧すると色が変化する仕様になっており、日誌を確認したか可視化できるようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、ご利用者やご家族から生活歴や馴染みの暮らし方などの情報を収集し、これからの生活に活かせるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後は、センター方式を活用し、生活リズムなどご利用者の状況把握に役立てるよう努めています。また、日々のご利用者の状態を日誌や電子媒体で記録し、職員間で情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が課題整理総括表を作成し、介護計画の実践状況や課題を明確にしています。基本的には3か月ごとのカンファレンスにおいて、理学療法士や看護師を交えて話し合い、計画の見直しを行っています。また、状態の変化が見られた場合は、適宜話し合いの場を設けています。ご本人やご家族の意向も事前に確認し、介護計画に反映させています。	課題整理総括表の活用のほか、男女の役割の変化や個性の尊重など、一人ひとりにあった介護計画を4人の介護支援専門員が中心となりチームで作成している。カンファレンスには、法人の強みを生かし、理学療法士や看護師も参加している。カンファレンスには家族の要望や本人の思いも記載されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施内容は電子媒体に記録しており、法人内のメールなどを活用して職員間で情報を共有し、介護計画に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力機関に相談するとともに、法人内の他部署との連携を図り、その都度生じるニーズに柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	納涼祭では、社会福祉協議会を通じて学生ボランティアやボランティアグループの派遣を依頼し、交流を楽しむことができました。また、地域の方とともに花壇の手入れなどを行い、交流を深めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望される場合は、これまで通りご家族同行のもと受診いただいています。その際、「医療情報提供書」にご本人の状態を記入し、医療連携がスムーズに行えるよう支援しています。医師からの返信は電子媒体に入力し、職員間で共有しています。	スケジュール管理アプリで、往診や受診のスケジュールを管理している。入居前からのかかりつけ医を利用している利用者も、法人の医師による予防注射を一緒に受けることができる。協力医による往診は14日に1回であり、1回目は家族にも同席を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護では、月2回看護師にご利用者の状態を報告・相談し、必要と判断した場合にはご家族に受診を依頼しています。また、緊急時には日中・夜間を問わず連絡が取れる体制を整えており、看護師の指示を仰ぎ適切に対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関やご家族との連携を密に行い、情報交換や相談に応じています。入院時には病院と連携し、早期退院ができるようご家族と連絡を取り合い、連携室を通じて情報収集を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき、事業所での対応について説明しています。現在まで実績はありませんが、重度化した場合には、かかりつけ医やご家族と現状について話し合い、今後の対応について相談・検討していきます。	利用者の状態が変化し、重度化した場合は必要に応じて介護保険の区分変更を行い、施設入所等の支援を行っている。緊急性のある場合は同法人の介護老人保健施設とも連携し対応している。看取りの研修は職員に何を学びたいかアンケートを取り、その結果を尊重し実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを策定し、常に目の届く場所に掲示しています。職員には2年に一度、普通救命講習への参加を義務付けており、実践力を身につけ緊急対応に備えています。今年度は砺波消防組合にて受講予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を実施し、職員が少ない中でもご利用者が安全に避難できるよう訓練を行っています。防災マニュアルが整備されており、避難場所や緊急連絡網の把握、地域の協力体制も確立しています。また、年に一度シェイクアウト訓練を実施し、身を守るための防災訓練を行っています。	事業所での避難訓練後にアンケートを実施し、結果と感想、気づきを職員全員で共有している。今年度は地域開催の避難訓練に職員が参加し、今月シェイクアウトを実施する予定である。事業所のある場所は水害の洪水浸水想定区域外であり、主に地震と火災の防災訓練を行っている。	近所には家が少なく、空き家や高齢者のみの世帯しかない現状がある。しかしながら、運営推進会議メンバーや、長年の地域住民との交流を通して良好な双方向の関係作りができており、この関係性を活かしながらさらなる地域を巻き込んだ協力体制づくりに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体で定められている「職員心得」には、ご利用者の人権尊重やプライバシー保護に関する内容が記載されており、職員の意識向上に活かしています。「職員心得」は入社時に配布され、内容が更新された場合には職員に説明しています。	「職員心得」は、入職日に配布し、ルールの確認を行っている。また、事務所にも置いてありいつでも確認することができる。年1回の研修で、利用者の人権や尊厳、プライバシーの保護などのほかに、自分達が言われて嫌なことは言わない、記録はイニシャルにするなどきめ細かな対応を学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご利用者が思いや希望を自由に伝えられる環境づくりに努めるとともに、ご本人が自己決定できるよう声かけを行い、信頼関係の構築にも努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活には一定の流れがありますが、その中でも一人ひとりのペースを尊重した生活支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者が好む服装や髪型などでおしゃれを楽しめるよう、声かけや支援に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所で採れた野菜を食材に取り入れるなどして、ご利用者が食事に楽しみを持てるようにしています。また、ご利用者の誕生日には好みのおやつを提供したり、季節に合わせたおやつを提供するなど、食事を楽しめるよう支援しています。	誕生者に食べたいものをリクエストし、あんみつやケーキ、たい焼きなどを一緒に手作りしたり、購入したりして楽しんでいる。法人の管理栄養士による献立作成のほか、言語聴覚士による嚥下評価で栄養バランスが良く、安全に摂取できるよう支援している。地元プロサッカーチームの対戦相手の名物を食べて、試合に勝てるようゲン担ぎをしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当該関連法人の栄養士によるバランスの良い献立に基づき、体調や体重管理、病歴に応じて、法人の言語聴覚士による嚥下評価を踏まえ、一人ひとりに適した食事形態で提供しています。夏場などは水分量を増やすなど、水分管理にも配慮しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声かけや援助を行い、一人ひとりの状態に合わせて支援しています。また、夜間の義歯洗浄や安定剤の装着、定期的な口腔内チェックなどを通じて、清潔保持に努めています。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄状況や水分補給の記録を電子媒体に入力し、職員間で情報を共有しています。トイレでの排泄に向けては、声かけや誘導を行っています。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握することで、適切な誘導のタイミングを捉えることができ、失禁の防止や排泄の自立に向けた支援につなげています。	定時に誘導が必要な人、そわそわしている様子が見られたら声かけが必要な人、パットの確認のタイミングなど一人ひとりに合わせて対応している。個々の対応については、介護計画にも失禁の確認方法が記載されているため、職員間で統一されている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳や乳酸菌飲料、ヨーグルトなどを利用者の好みに合わせて提供しています。また、適度な運動を促すとともに、水分を多めに摂っていただけよう声かけを行い、自力での排便が促されるよう支援しています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回以上を基本としていますが、利用者一人ひとりの要望に応じて入浴日を変更するなど、柔軟に対応しています。季節に合わせて柚子風呂などを実施したり、入浴剤を活用したりすることで、入浴の時間を楽しみにしていただけるよう工夫しています。	ユニットごとに利用者の思いを尊重し、ゆず風呂や、入浴剤を入れて楽しんでいる。浴室は明るく清潔であり、脱衣所を暖房で温め、浴室内も暖房やシャワーで温めてヒートショックの予防に配慮している。水虫の感染予防のため、バスマットは利用者ごとに交換している。利用者のペースや気持ちに合わせて支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活ペースや希望に合わせて、適度な活動時間と休息時間を確保しています。生活リズムを整えるとともに、照明や室温などの環境にも配慮し、安眠できるよう支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は、提携している薬局で一元管理をしてもらい、適切に管理しています。薬の変更時には、本人の状態を観察し、その内容を電子媒体に入力して情報を共有しています。必要に応じて、医師・看護師・薬剤師に相談し、連携を図っています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活レクリエーションを通して、利用者が好きなことやできること、難しいことを把握し、それぞれに合った家事や役割を提供しています。天気の良い日には散歩や外気浴を行い、誕生日や行事などの特別な日には嗜好品を準備するなど、利用者が楽しめるよう工夫しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、日頃から事業所の周囲を散歩しています。近くにはお地藏さんがあり、のどかな田園風景が広がる散歩コースとなっています。また、年間計画に沿って花見やドライブなどの外出行事を企画し、外出支援に取り組んでいます。さらに、今年度もカターレ富山の招待により、数名の利用者とともサッカー観戦を行う予定です。	日常的に事業所の前に椅子を並べて日向ぼっこをしたり、近所を散歩している。地元の神社、川堤の桜、七夕、コスモスなど、季節ごとにドライブを楽しんでいる。ドライブの途中で流行りのコーヒー店でコーヒーを味わい、法人のバスを利用し地元プロサッカーチームの応援にスタジアムへ行ったりと、家族や地域とも協力し、工夫を凝らした外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金を所持していませんが、どうしても所持を希望される方については、本人およびご家族にリスクを説明したうえで、管理していただいています。欲しいものや必要なものがある場合は、ご家族に連絡して持ってきていただくか、ホームでの買い物時に立替で購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から要望があった際には、電話ができるよう支援しています。お子さんやお孫さんから手紙や電話をいただくこともあり、居室でテレビ電話を楽しんでいる方もおられます。また、携帯電話を持参されている方には使い方をお伝えし、スムーズに連絡が取れるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾を利用者と一緒で作成し、季節感を感じていただいています。毎年グリーンカーテンを作り、夏の日差しを和らげるとともに、テレビの音量や外の景色など、利用者に不快や混乱を招かないよう配慮しています。共同スペースでは、テレビの音や会話の声などにも配慮し、居心地よく過ごせるよう努めています。	共有空間は窓からの光や照明で明るく、広々としている。また、各座席から田園風景が見え、利用者や職員からは外を見ているだけで気持ちが和むと好評である。玄関や廊下、フロアに飾られた作品はモダンで、写真からは日々の利用者の楽しみが伝わってくる。窓の外からは、夏場は家族と植えたゴーヤのグリーンカーテンが、秋には利用者と植えたパンジーを見ることができ、季節を感じさせてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やテレビ前のソファ、食卓の座席などの配置に配慮し、利用者同士がそれぞれ思い思いに心地よく過ごせるよう心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや洗面所は備え付けとなっています。それ以外の家具や物品については、本人が使い慣れたものや馴染みの家具、昔の写真などを持ち込んでいただき、居心地よく過ごせる環境づくりに努めています。	居室には窓があり、外の景色を楽しめるような高さに設置してある。持ち込みは自由で、それぞれお気に入りのテーブルや椅子、写真などが飾ってあり、自分の部屋が心地よく過ごせる場所であることが、部屋に移動する利用者の様子からもうかがえる。各部屋の壁には1日の予定表がわかりやすいイラスト入りで掲示されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境を整えているため、車椅子や歩行器を利用されている方も、自立した生活が送れるよう配慮しています。		

2 目標達成計画

事業所名 あつとほ〜む砺波

作成日: 令和 7 年 12 月 13 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	(13)	BCPに基づき、地震・水害等の災害を想定した避難訓練を計画的に実施する必要がある。 地域住民や関係機関との連携を図った避難訓練を実施し、災害時の協力体制の構築および実効性の確認を行う必要がある。	地震や水害等の災害を想定し、適切な避難方法および連絡体制を職員全体で理解・共有する。 地域住民や関係者と連携した避難訓練を実施し、災害時における協力体制の構築と実効性の確認を行う。	BCPの定期的な見直し BCP(事業継続計画)を定期的に見直し、現行の避難計画や連絡体制が常に最新の状況に対応できるよう更新する。 連絡網の作成と地域地図の準備 BCPを元に、利用者家族、職員、および地域住民との連絡網を作成。また、災害時に迅速に避難できるよう、近隣地域の地図を準備する。 避難方法に関する具体的なマニュアル作成 災害時の避難方法を具体的に示すマニュアルを作成し、職員および地域住民に周知徹底する。 第2避難所(スリーティ)への避難訓練実施 施設外の第2避難所(スリーティ)への避難訓練を実施し、実際の避難手順や協力体制の確認を行う。 地域の防災訓練への参加(職員) 地域で開催される防災訓練に職員が積極的に参加し、地域との連携を深めるとともに、職員の防災意識を向上させる。 地域住民との協力体制の確認 地域住民(区長、民生委員など)と連携し、災害時における協力体制や支援方法について確認し、実効性を高める。 防災士の資格取得 職員が防災士の資格を取得し、災害時における専門的な知識と対応力を向上させる。	12ヶ月
2					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()